



ひめじょ通信



発行：第20号（特別号：総集編）
発行日：2024. 8. 31
広報委員：今村朋子（編集長）・中尾慶子
瀧本千紗・山本裕紀 ほか旧委員
発行部数：200部

発行元：一般社団法人 愛媛助産師会
（一社）愛媛助産師会 会長 原田恵美
事務局：愛媛県松山市中一万2-1
愛媛県助産師会立まつやま助産院内
E mail：ehime@himejyo.jp

開催
決定

令和6年度 中国・四国地区研修会
おかえりなさい…「さんば」の故郷 愛媛へ
守りぬくもの 変えてゆくもの

2024. 8. 31（土）～9. 1（日） 愛媛県立医療技術大学にて開催



●研修チラシ

2020年 私たちが初めて直面した 新型コロナウイルスの感染拡大により 果たせなかった想い…。愛媛で開催を予定していた 日本助産師会全国総会・学会は「またいつか、さんばの故郷、愛媛へ」と変更して史上初のWEB開催となりました。その「いつか」が、やっと実現することに感謝を込めて、皆様をお迎えいたします。

今回の研修では、目まぐるしく変化する現代社会の中で、助産師として、「守りぬくもの 変えてゆくもの」についてさんばの故郷の地で、皆様と共に学びを深める機会にしたいと思います。

研修の講師には、愛媛県で活躍している方や、これまで「ひめじょ通信」でとりあげた方など、愛媛助産師会にゆかりのある方を数多くお招きしました。

研修会で、「ひめつう」の内容をさらに詳しく掘り下げていく予定です。

そこで今回、中国・四国地区研修会の企画に関連する、これまでのひめじょ通信の記事をまとめた「総集編」を発行いたしました。ぜひ、研修の抄録と合わせてごらんください。（ひめじょ通信編集長 今村朋子）



これまでひめつうで取り上げた研修関連記事

一日目	【ひめじょ特別企画】高忍日賣神社さんばの歴史研修……………	2-7 p
二日目	【会長講演】明治の産婆たちから守り抜かれた 助産師の歴史とこれからの助産師会の活動……………	8 p
	高田昌代 日本助産師会 会長	
	【特別講演】守り つなぐ 自然なお産と私たちの助産院……………	9-11 p
	武智恵子 愛媛助産師会立 まつやま助産院 元院長	
	【シンポジウム】これからの産後ケア守りぬくもの×変えてゆくもの……………	12-19 p
	中尾慶子 四国中央病院 助産師 伊藤美香 産前産後ケアハウスFUWARI 助産師 原田恵美 出張開業 はらだ助産院 助産師 大藤佳子 ゆりかごファミリークリニック 小児科医師	
	【オンデマンド研修2】家族の“はじめの1000日”……………	20 p
	～助産師が寄り添い 繋ぐ母乳育児～ 鈴木佳奈子 助産院ゆり 院長	

●各記事にひめつう号数と発行年を記載しています

特別講演2の
伊藤さん、
オンデマンド1の
池田先生は、
今回の研修で初めて
とりあげる内容です。
楽しみになさって
ください！

●トピックス記事

たかおしひめじんじゃえんぎ
 ～ 愛媛の産婆文化探訪 ～ 高忍日賣神社縁起

札幌医科大学保健医療学部看護学科 山口雅子

伊予郡松前町にある高忍日賣神社にお参りに行かれたことはありますか？

こちらの神社は、全国で唯一、助産師

たかおしひめのおおかみ
 の祖神である高忍日賣大神をお祀りしている神社なのです。高忍日賣神社の御祭神は産婆・乳母の祖神、また 箒の神として皇室を初め多くの方から崇敬されています。古くは聖徳太子も御参りなさったとのことです。

助産学生だった頃の助産の歴史の講義を思い出してください。古事記(712年)や日本書紀(720)に、産室を作ってお産したという記載があるところです。ヒココホデミノミコト(山幸)は、兄の海幸から借りた釣り針を失くし海中に釣り針を探しに行き、そこで海神の娘、豊玉姫と出会い結婚され楽しく暮らされていました。兄から借りた釣り針を返さなければいけないことを思い出し、ヒココホデミノミコトは豊玉姫とともに海中から陸地に戻られました。姫が急に産気づかれ、お産するための産室を海辺に作られたのですが、屋根を葺き終えない間に男児がお生まれになりその名を鵜草葺不合命(ウガヤフキアエズノミコト)と名づけられました。このお産が大変難産になられたそうです。豊玉姫が高忍日賣大神と一心に唱えられると、高忍日賣大神が

あまのおしひめのみこと あまのおしひとのみこと
 お姿をお見せになり、天忍日女命と天忍人命とあまのおしおのみこと

天忍男命を使わされて、天忍人命と天忍男命は箒を作って産室の蟹を掃き出させ、天忍日女命は産室に入って助産師としてお世話をすることで、始めは難産で

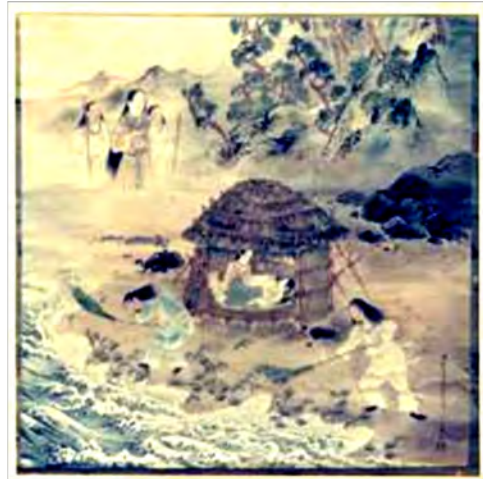
あった豊玉姫のお産が順調に経過し、産室の屋根も葺き終わらないうちに無事終わったということです。

こごしゅうい
 古語拾遺には「誕育れませる時、海浜に室を立てたまひき。時に掃部連遠祖天忍人命、共に奉り陪侍りしに、箒を作りて蟹を掃い、仍鋪設掌れりしが、遂に職と為りて、号を蟹守と日ひき」とあります。

かにもり
 蟹守という仕事は、産室を箒で清め鋪設(ほせつ・ととのえ準備すること)を管理する仕事であるということです。助産師の仕事は蟹守と言われていたと学校で習った記憶のある方もいらっしゃるかもしれません。

どうして蟹守というのでしょうか。今でも脱皮する白蛇など崇められていますが古代には脱皮を繰り返す蟹は生命の神秘を表すものとされていたそうです。蟹や珊瑚など満月の夜に一斉に産卵することは広く知られていますが、蟹と月の満ち欠けの関係も古代の人に畏怖感を与えたに違いありません。南方の国では同じような伝承があるそうです。蟹の形状も影響したかもしれません。産室に蟹を這わせたのは、新生児が蟹のように何度も生命を更新させ永く健康であることを願ったことだったと思われます。

次に箒についてです。出産と箒の関係は民俗学的に注目されていることらしいです。長崎の対馬の和多都美神社では安産祈願に箒を奉納し、安産のお



【御神徳絵図】

二人のみことが、這い上がってくる蟹を掃い、天忍日女命は産室に入って豊玉姫のお世話をしている図。

高忍日賣神社HPより許可を得て掲載



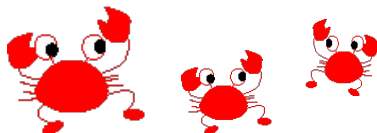
札参りにまた一本納めるという伝承があるそうです。お産のときに駆けつける高忍日賣大神は箒の神で、悪霊が赤子につかない様に外へ吐き出す役を果たされるそうです。そのような訳で箒神は、出産の時に立ち会うという神で、掃き神・産神と言われます。妊婦のおなかを新しい箒でなでると安産になる、箒をまたぐと難産になる、厠はこの世とあの世の境であり便所を綺麗に掃除すると安産になるとか綺麗な子供が生まれるとか言われて育った方も多いと思います。

おきな おうな

翁と媼は長寿を願う縁起物として飾られているお家も多いことでしょう。翁も媼も竹箒と熊手を持っています。箒は産神、熊手は福をかき集めるということだそうです。箒は掃除の道具としてだけでなく、古くから神聖なものとして考えられているということです。

皆さん分娩室はもとより、自宅もせつせとお掃除いたしましょう。お産の神様は掃除の神様でもあられるのですから。

青葉幼稚園の園長先生が宮司の後藤正宜様です。連絡しておけば説明もしていただけたと思います。灯台もと暗しの方もおられたかと思います。地元の皆さんも、一度はお参りしてもよいのではないのでしょうか。縁結びの神様でもあられます。



たかおしひめじんじゃ
 高忍日賣神社

●鎮座地：伊予郡松前町大字徳丸387番地

たかおしひめのおおかみ

●主祭神：高忍日賣大神

あめのおしひめのみこと

あめのおしひとのみこと

あめのおしおのみこと

●配神：天忍日女命 天忍人命 天忍男命

●連絡先：089-984-8212

●ホームページ：http://www.hpmix.com/home/takaoshiguu/T1.htm

さっそく行ってきました！

ひめつ編集委員 今村朋子(医療技術大学)・内門弘子(愛媛大学)

私たちのこんな身近に「全国唯一の産婆の神様」がいらっしゃったなんて！！

さっそく、ひめつ編集委員の二人が現地取材に行ってきました。近くの曲がり角などには、目立つような目印がなく、はじめは迷ったのですが、田んぼの中に幼稚園の明るい建物と、こんもりと大きな木々が見えますので、すぐに神社とわかりました。

ひめつうを読んでくださる皆様のぶんも、私たち二人が心をこめて、「愛媛の助産師の発展とお母さんたちの安産と幸せな子育て・・・」はたまた、「私事の素敵なお縁談から子宝祈願、助産学生の国家試験合格」まで！？すべてを一挙にお願いしてまいりました。

ぜひ皆様も、足をお運びください。安産の神様として、お母さんたちにもお教えしたいですね！



●鳥居をくぐると・・・

こまいぬ様が出迎えてくださり、神社の由来にも、「全国唯一の産婆・乳母の祖神で妊婦の信仰が厚い」と書かれてありました。



お母さんと赤ちゃんが
幸せに出産、子育てができる
愛媛になりますように！
良縁・子宝に
めぐまれますように！！
etc.....



愛媛の助産師が
イキイキと働けますように！
助産師会愛媛県支部が
発展しますように！
助産学生が国家試験に
合格しますように！
etc.....

●御神木とうぶすな様

境内に入ると立派な御神木があり、その根元にある、うぶすなさまで願い事をして、周りの願い石の中から一つ持ち帰り、願い事がかなったら、それをまたお返しするのが習わしです。私たちもお願いをして、卵に似た形のキレイなまあるい石をいただきました。
＊うぶすなさま(産土様)

・・・生まれた土地を守護する神様。



●交通アクセス

電車でお越しの方・・・JR予讃線「北伊予駅」から東(徳丸方面)へ徒歩15分

お車でお越しの方・・・松山自動車道「松山IC」から車で伊予・松前方面へ約15分



●つぶやきコラム●

そういえば、看護師や助産師の名称が「婦」から「師」に変更されるとき議論で(男女どちらにも使える名称という目的でしたが)、「そもそも『婦』という文字は、女性とホウキをくっつけた漢字であり、女性を掃除などの雑用に結びつけた差別的な意味合いがあるため、専門職の名称として用いることはふさわしくない」という見解を見たことがあります。

でも、今回の記事を頂いて、ホウキには「祓い清める」という厳かな意味があることや、出産との関係が深いものであることを知り、とても感銘を受けました。私はなぜか、まだまだ「助産婦」という以前の名称に愛着を感じるのですが、もしかすると、「命の誕生」という神事ともいえる厳かな場において、邪悪なものを祓いながら(正常から逸脱する要素を一つでも減らすことで、お産を正常に保ちながら)、巫女のように静かに寄り添うという、助産師の仕事の本質そのものが、まさに「婦」という漢字に表されているからかもしれないと感じました。(編集委員いまむら)

五月

たかおしひめ
愛媛が誇る高忍日賣神社に
「母子と助産師の碑」建立！



ひめつう読者の皆さんにはおなじみの、全国唯一の産婆の祖神をお祭りする高忍日賣（たかおしひめ）神社に「母子と助産師の碑」が建てられました。村松志保子助産師顕彰会（代表 南野知恵子氏）が、産婆の神様が祭られているこの神社に是非とも記念碑を建てたいと後藤正宜宮司さんに懇願し、建立に至ったそうです。五月晴れの平成24年5月27日、日本助産師会、愛媛助産師会の共催により「母子と助産師の碑」の除幕式が厳かに行われました。（広報委員 中越利佳）



除幕の瞬間!! ワクワク



除幕式で挨拶される南野会長



♥母子と助産師の碑
のレリーフ像
造形作家 野口晴朗 作

母子と温かく見守る助産師の姿をデザインしたものだそうです。とても優しいレリーフ像です。



記念すべき除幕式に
お神酒で乾杯！
参列者全員にお神酒が
ふるまわれました。
とっても美味しい
お神酒をいただき幸せな
気持ちになりました。



南野会長から
後藤正宜宮司さんに
感謝状が送られました。

助産師の原点を見直そう！
挨拶される
日本助産師会岡本会長



村松志保子助産師顕彰会とは

村松志保子女史(安政3年～大正11年)は、明治時代の初期に東洋医学と西洋医学を修めた後、女医としてではなく助産師(当時産婆)として活動した先達である。博愛精神に基づいた助産活動を展開し、さらに助産師教育にも情熱を注いだ。女性の健康を守り、女性の地位向上のために一生を捧げた先駆的で自立した彼女の存在は、我が国の助産師の歴史を塗り替えた。生誕150周年を迎える平成の時代になって、かつて助産師界のリーダーとして活躍した志保子女史の存在意義が世に認められるようになり、その精神と偉功を永く後世に伝えるため、平成17年より有志による「村松志保子助産師顕彰会」が設立され、助産師の顕彰活動が毎年実施されている。

三月

三月八日は「産婆の日」！
母子と助産師の日イベントが開催



今年（平成25年）から、毎年3月8日は「産婆の日」として「母子と助産師の日」の神事が行われることになりました。また地域貢献のための同時開催イベントとして、神社隣の青葉幼稚園体育館で、岡本会長による講演会や子育て中のお母さんたちへの相談会が開催されました。東京をはじめ、各地の助産師の方たちもエプロン持参で参加され、子育ての相談に応じてくださいました。産婆の神様をお祭りするこの愛媛の地から、助産師の力を結集し、母子の幸せのために頑張っていきたいと思います。

オープニング
レクチャー

「産婆の神様の地から～現代まで受けつがれる助産～」

●神代から現代まで受け継がれる助産 後藤 正宜 氏（高忍日賣神社 宮司）

「助産師の神様が祀られる神社が愛媛にあるなんて、そこで助産師になったなんて、なんかすごい！」と感じているのは私だけではないはずです。神話はとても興味深く、宮司さんの「日頃より努めて自然の中に身を置いて～」という言葉がありました。私も自然の中に身を置き、ゆったりした気持ちをもって支援していきたいと思い

ました。今は地域で開業し、お産から離れていますが、当時は慌ただしい中にも産婦さんに手を当てながら祈るような気持ちでいたことを思い出しました。助産師の手で新しい命を迎え、子育てに寄り添っていくことを未来にも受け継がれてほしいと思いました。

（助産院emi 田中恵美子）



●宮司さんの講演は、本殿で特別に撮影させていただきました

平成28年3月8日
イベント&神事開催

さんばの
日

母子と助産師の日イベント・安産福運大祭

場所：高忍日賣神社・徳丸老人憩いの家

母子と助産師の日イベント

毎年3月8日に開催されている産婆の日の記念行事が、今年も盛大に行われました。座談会の会場となった神社隣の「老人憩いの家」には、なんと…**70名！**を超える助産師の方々が全国から集まりました。

おなじみ岡本喜代子先生のパワフルな講演の後、「開業の魅力を共有しませんか！」というテーマで、香川、岡山、神奈川、群馬の4県で開業している助産師の方のお話がありました。保健指導を中心に地域の産後の母子に寄り添う助産師の様子や、子育てと仕事の折り合いをつけながら様々な場所で助産師の仕事のスタイルを模索する様子、やっぱり「お産を」と開業助産師として分娩助産に取り組み始めた様子など、それぞれの開業スタイルでの活動の実際やその魅力を生き生きと語ってくださいました。

(広報委員：今村朋子)



● 県外からお招きしたゲストスピーカーの皆様

● 母子と助産師の日のイベントに参加して

愛媛県立医療技術大学 H27年度 助産学専攻科学生
大田亜果音 永井緑

学生さんたち！
しっかり考える
助産師になりなさい。
量をこなさないと
質にならないのよ！
劣を厭う人は絶対に
成長しません！
とにかく1回でも多く
自分から経験させて
もらいなさい。

岡本先生の講演では、私たち学生へのメッセージをいただき、とても勉強になりました。1年間の助産学専攻科での学びの期間を終えて、4月から病院での初めての勤務を目前にしている今、「考える」ということを決して欠かしてはいけないと感じました。先生の生き生きとした様子から、助産師の魅力をたくさん感じ、助産師になってよかったと思えるお話でした。これから臨床の場に出ていく中で、考える力をフルに活用して働いていきたいと思います。

また、各県のスピーカーの方のお話では、開業をすることでより地域に密着できる、地域のお母さんや赤ちゃんの成長を実感できることに興味を持ちました。そして開業するためには、助産の力だけでなく、様々な専門的な力が必要となってくることを学ぶことができました。これから日々、目標を持ち、根気強く助産師として学ぶことを継続していきたいと思いました。今後も自分の幅を広げるためにも、積極的にセミナー等にも参加しようと思いました。



安産福運大祭

午後からは、高忍日賣神社社殿に助産師の参拝者の皆さんが昇殿し、厳かに神事がとりおこなわれました。助産師の更なる技術向上と発展そして全国の母子が健康であるよう祈願しました。午後の神事から参加された方も大勢いらっしゃいました。

いつもながら、このような神社が、私たちのすぐそばにあることは、本当にありがたいことだと実感する3月8日でした。



読んでみん犬(けん)！？

「今さら…紹介！？」「とくに読んだわよ」と言われるかもしれません。取り上げるのが遅くなってすみません。毎年、産婆の日にお越しくださる岡本先生と、私たち助産師を心から応援してくださっていた産科医、進先生の著書です。まだの人は、2冊セットでどうぞ！



「助産力」

進純郎、岡本喜代子（著）日本助産師会出版（2014）
お二人の先生が、助産師のために書き下ろした1冊です。

「子宮力」

進純郎、（著）日本助産師会出版（2014）
今に生きる女性に向けた「子宮」からのメッセージ。



共催
イベント

母子と助産師の日・安産福運大祭

2018.3.8 場所：徳丸老人憩の家・高忍日賣神社

毎年、村松志保子助産師顕彰会が主催し、本会が共催している「母子と助産師の日のイベント」。今年は、雨の中での開催となりましたが、全国から多くの方が訪れてくださいました。

シンポジウムは、「産婆・助産婦の歴史への接近」というテーマで、社会学、文化人類学、民俗学の先生方の講演でした。「こんな著名な先生方が、しかも少しずつお話しされるなんて！」と、その豪華な人選に驚きでした。私たち助産師の先輩方の歩んだ歴史を知ることとは、

自分たちのルーツを知ること、そして自分たちのこれからを考えることにつながります。母子を守り、この仕事を守ってこられた先輩方の活動に胸が熱くなりました。南予の歴博で見せていただいた、産婆の仕事道具に今回のシンポジウム…今年は、歴史についてご縁のある1年でした。

(広報委員：今村)



●雨のため、本殿の中での記念撮影となりました。



●年に一度、この日だけ御神徳図が公開されます。

写真はひめじょホームページの「助産師の方」→「イベント風景(写真)」のURLからダウンロードしますので、ぜひご覧ください。期限は2019年3月8日まではです。

共催講演
神事

母子と助産師の日 前ICM会長講演！

2019.3.8 場所：徳丸老人憩の家・高忍日賣神社

毎年、村松志保子助産師顕彰会とともに開催している母子と助産師の日。今年は、前ICM会長のフランス先生を講師として、九州大学の谷口先生を通訳にお迎えして、世界の助産師の活動に触れる機会となりました。

「助産師」は世界共通の職業ですが、その活動内容や職業の確立状況など様々な違いがある中で、改めて日本を見直すことができました。フランス先生が会長になる以前、イギリスの地域の助産師として活動された経験の中で大切にされていたことについて「hear~よく聴くこと~」と答えてくださりました。そして先生が身につけられているトラウベ柄

のスカーフを見せて下さいました。そして、ひめじょ広報委員として、トラウベのイラストのひめじょTシャツのロゴマークを自慢！？させていただきました。世界中で大切にされる助産師のケアの本質は同じであることを参加者の皆で共有できる時間になりました。(広報委員：今村)



●トラウベ柄のスカーフ！



さんば
の日

「安産福運大祭 母子と助産師の日」オンライン配信！ 令和3年3月8日 高忍日賣神社

昨年は、コロナのために開催できなかった「母子と助産師の日」の行事ですが(神事ですので、お祈りの神事は昨年も神社関係者の方のみで行われております)、今年は密を避けて少人数で開催することとなりました。そして、初めての試みとなるオンライン中継も！

はじめに村松志保子助産師顕彰会の岡本喜代子副会長から、神社の由来や神事の始まりなどの開催にあたってのご挨拶の映像を配信した後、神事開催の運びとなりました。愛媛助産師会からは井伊会長が玉串をささげました。また岡本先生のはからいで、助産師のこれからを担う学生の代表として、今回、特別に参加させていただいた医療技術大学の助産学生も玉ぐしをささげる大役を担わせていただきました。

今回、オンライン中継によって、全国から多くの助産師さん、助産学生さんが参加してくださり、なんと海外からの参加もありました！チャットには「遠くにいながら参加させていただけて、感謝しております」「Thank you very much……Midwifery Festival」とメッセージを書き込んでくださいました。(ひめじょ広報委員:今村朋子)



●年に一度、公開の御神徳絵図



☞さんばの日にちなんで、3月限定の御朱印は「篤と母子」の復刻版の印が押されます！さらに戌の日に行くと犬の印も！フルラインナップの御朱印です。



●顕彰会理事・ひめじょ理事・助産学生が参列しました

対面
イベント
復活2024. 3. 8 母子と助産師の日
安産福運大祭 イベント開催！

コロナ禍により途絶えていた、母子と助産師の日のイベントがついに復活しました！全国から助産師が集い、語り、祈り、交流を深めました。午前のイベントでは、村松志保子助産師顕彰会会長の岡本喜代子先生の講演に皆が元気をいただきました。当日のイベントではひめじょ賛助会員の助産学生の皆さんがボランティアとして皆様のおもてなしや境内の案内で大活躍でした。「やっぱり対面のイベントは楽しい！」という思いを久しぶりに実感した一日でした。(広報委員：今村)



オープニング
レクチャー

「産婆の神様の地から～現代までうけつがれる助産～」

●安産福運大祭と助産師の歴史 岡本 喜代子 氏 (村松志保子助産師顕彰会 副会長)

毎年3月8日(さんばの日)に高忍日賣神社にて安産福運大祭が挙行され、私も数年前から参加するようになりました。その時にはじめて村松志保子助産師顕彰会のことを知り、村松志保子先生ってどんな方なのだろうと思いました。

今回改めて岡本先生の講演からその偉業を知り、まだ女性の地位が低い明治時代に助産師(産婆)の仕事を確認させていったバイタリティーを感じました。東洋医の父に医術を学び、その上西洋医学も身に付け、妹を産褥熱で亡くしたことから医師ではなく産婆として活動。女学校「淑女館」を設立し、一般教養で産婆学を教え、後に安生堂産婆学校を設立し産婆教育及び自立的博愛活動を行ったという功績は現代に生きる私たちに勇気を与えて下さいました。



●顕彰会が建立した境内の
母子と助産師の碑

私たちが胸を張って「助産師です」と言えるのは村松志保子先生はじめ、その志を引き継いで活動されている顕彰会の皆さまのような先輩助産師のお陰とも言えるのではないのでしょうか。

私たちは日本人として四季のある自然とともに生きてきました。自然のリズムを肌で感じ、先祖の伝統を受け継ぎそれを次世代に伝えていく、命をつなぐ。ここに助産師が関わること、助産師が生き残っていく知恵をみんなで考えてほしいと言った岡本先生からのメッセージがここに残りました。仕事をしていく上で後輩に伝えていける力を残していくこと、命を伝えていくこと、この言葉を胸に頑張っていきたいと思いました。(はらだ助産院 原田恵美)

★顕彰会の機関誌でもWEB学会の感想記事が掲載されています。ひめじょうHPにリンクがあります。



●愛媛県立医療技術大学 図書館特別展示中 (令和6年8月～10月末)

今回ご講演いただく、高田昌代 日本助産師会会長は、明治時代の産婆の活動研究の第一人者でいらっしゃいます。高田先生は、愛媛が誇る文化人類学者「吉村典子」先生から手渡された「産婆学雑誌」の現代語訳をまとめられ、その貴重な資料で、明治の産婆たちのすばらしい活動を私たちに示してくださいました。他にも、明治～昭和～平成から現代にいたる、産婆～助産婦～助産師の変遷がわかる資料を展示しています。

●必見！歴博所蔵：昔の産婆道具



●産婆記録には分娩の貴重な記録が丁寧に記されていました。

●朱塗りの木製トラウベははじめて見る素敵な道具！



●学会の方が貴重な所蔵品を紹介して下さいました。お産に携わる産婆さんの仕事道具は、歴史的に価値ある品々であることに感動でした。



●「はじめて見た」「懐かしいわぁ」など、経験により様々な反応でした。



●コンパクトに折りたたんで収納できる計測器！臍帯剪刃やクレンメ、ペーパーパウダーもあります。

オープニング
レクチャー

「産婆の神様の地から～現代まで受けつがれる助産～」

●先輩から受け継ぐ助産師会立まつやま助産院 ～昭和から平成・令和～ 武智 恵子 氏 (まつやま助産院 院長)

まつやま助産院で20年近く従事されている武智恵子院長より、助産院の1世紀近く上る歴史を紐解き、歩みをご紹介いただきました。なかでも、一度は助産院閉院を余儀なくされた歴史を知り、助産師の方々の熱い思いと使命感を窺うことができました。また、そのような昭和の歩みを平成で受け継がれた武智先生が、令和のこれからに、何をどのように残されていきたいか、ここにも武智先生の熱い思いと妥協しないご努力が窺えました。私自身も、まつやま助産院で出産し、母子や家族がその人らしくお産をし、助産師が助産師らしく活躍できる場であることを実感しておりました。そのため、今回こうして、まつやま助産院の歴史や思いが全国に向けて発信されたことがとても嬉しく、母親として、助産師として大変誇りに思いました。

●旧松山助産院(左)と
新まつやま助産院(右)の写真

昭和から平成・令和へ切れ目なく受け継がれたこの思いや技術の偉大さを実感しながら、後世へ繋いでいけるよう、助産師の一人として考え続けていきたいと思ひます。
(医療技術大学 瀧本千紗：HP担当)

みんなの
まつじょ

まつやま助産院 院長交代

「自然なお産を守る! :まつじょのこれまで…とこれから…」



全国でも数少ない、助産師会立の「まつやま助産院」は、私たちひめじょ会員の拠点ともいえる場所です。令和5年3月、助産院の院長交代という、大きな出来事がありました。そこで、これまで長きにわたり、院長を務められた**武智恵子さん**と、新しく院長に就任された**徳本千秋さん**のお二人を取材させていただきました。(取材：今村朋子)

*武智さんがまつじょに入ったきっかけ…

【武智さん】病院(松山赤十字病院)で師長をしていた頃、地域で助産師がどのくらい必要とされているのか気になり始めたんですよ。でも、病院の中に入るとなかなか見えないので、助産師会に入会して、(旧)松山助産院に手伝いに来るようになったのがきっかけです。勤務が休みの時、お産の時には呼んでもらったりしていました。

当時の助産師会は、高齢の先輩方が多かったので、私が助産師会に入ったらすぐ、支部長になったんですよ(笑)(H10年)。そして、東京の会議に何度も行くことになって、全国の助産師の活動を知ったんですけど、地域の助産師さんたち本当にすごいんですね。もう圧倒されてね…いっつも触発されて、愛媛に帰ってきよりました。

*自然なお産への憧れと分娩台のない助産院へ

【武智さん】そうやって全国の助産師さんの活動を知る中で、フリースタイルとかアクティブバースとか、産む人が中心のお産を知って、憧れていきましたね。それで、院長に就任した時に(H14年)、昔の助産院にあった分娩台はのけました。その後、新しく建て替えた時(H18年)は「何をにおいても、産む人の希望を最優先にすることを大事にしよう」と思って建てたので、もちろん分娩台はありません。やっぱりね、**産む人が、産みたいように産もうと思ったら、分娩台があったらきん**のですよ。そういう意味でも、建て替えが一番印象に残ってますね。資金の調達から経営まで力を入れましたね。

【今村】おかげで、こうして皆が集える場所があるんですね。

【武智さん】自分が分娩台のない畳の部屋で1例目の介助をするまで、実際にフリースタイル分娩に立ち会ったことはないし、誰かに手取り足取り教えてもらうことは

なかったです。研修に行ったり、DVDを見たりはしましたけど。でも、いつもの仰向けが反対になっただけやしね。**赤ちゃんが生まれてきたら受けるだけ**ですよ。うん…、アクティブバースの本読んだら、誰でも介助できるんじゃないんですかね。



●徳本さん と 武智さん

*自然なお産を受け継ぐ!

【徳本さん】私は、武智さんに会うたびに「(スタッフの)空きないですか?」って、何回も言ってたんです。そして、ある時ついに「来てくれる?」って電話がかかってきて!まつやま助産院に勤めることになりました。

ここに来て13年、院長を引き継ぐことになって、不安の方が9割以上ですが、私が引き受けたのは、**数は少なくても「助産院で産みたい」って言うてくださる方々が来れる場所を守らないといけない**と思ったからです。自然なお産について先輩方のいろんな知恵とか技術を教えていただいたので、それをもとに大事に続けていきたいなと…思っています。

*武智さんから新院長の徳本さんにエール!

【武智さん】徳本さんのお産に対する気持ちは、何も言うことないです。あとは、人をまとめたり経営を頑張ってくれたら。とにかく自然なお産が大好きだし、自然に産みたい人の場所をつぶしてはいけないという強い気持ちがあるから、やっていけると思ひます。あとは、学生も受け入れとるし、後輩も育てていかないとね…!

まつやま助産院での22年間、本当に楽しかったです!

●新連載記事 ～ ひめじょお産場探訪 ～

私たち助産師会の活動拠点！ (社)松山助産師会立 まつやま助産院

今回から新連載となる施設取材特集！ひめじょ編集委員が、県内の様々な出産施設～略してお産場！？～を直接訪問して、そこで働く助産師の活動やアツい思いを中心に、施設の様子をイキイキとお伝えしたいと思います。意外と知っているようで知らない、すぐ身近にある他の施設のこと…、ひめじょ編集委員とともにおじゃまさせていただきます。

まず第1回は、私たち助産師会の会員にとって一番身近な施設、理事会や自主グループの学習会など様々な活動拠点となっている、まつやま助産院をとりあげました。まつやま助産院と言えば、愛媛が誇る、全国でも数少ない助産師会立の助産院！さて、どんなお産場でしょうか、いざ潜入～！

～取材させていただいた方～

- ◆武智恵子 助産師：まつやま助産院長
H13年 松山日赤退職
H13年12月 まつやま助産院就職
H14年 2月 まつやま助産院長
- 松山助産師会の会長を務めるなど、現場及び愛媛の助産師の先駆けである



エコーで胎児の状態を診る
武智院長。
妊婦健診は、
1時間枠をとって
ゆったりとした
中で行われる。



地域の中で頑張る助産師

●地域に溶け込むたたずまい

松山市中一万町の住宅街のなかにモダンなクリーム色の建物が見えてきます。松山助産院は以前から知っていたのですが実際の訪問したのは昨年助産師会の会議に参加した時が初めてでした。わくわくしながら普通のお宅を訪問するみたいにドアを開けると1階ロビーに・・・母子を優しく包むような案内やパンフレットを目にし、やっぱり助産所なんだと思わせるとてもリラックス出来た光景でした。1階には右手に行くくと助産師会の理事会が行われているフロアー(太陽の間)があります。



●助産師会の会議の様子

●助産院のしごと

当助産院は社団法人松山助産師会の中に位置づけられ、運営は5名の助産師で助産業務を行っています。妊娠～分娩～産褥と受け持ち制で担当しています。妊娠中はお母さんとの信頼関係を築く大切な場です。相手をよく知る・・・それは生活習慣であり家族であり人間関係であり、その状態を理解しわかり合っていくことが大切だということです。そのためには妊婦健診には時間をかけ、自分のことも知ってもらい信頼関係を築きあげていくそうです。24時間拘束されるので携帯は手放せないなどのストレスがあるようですが助産院の1日は活気に満ちています。赤ちゃんの沐浴、母親のケア、食事作り、掃除、洗濯とたくさんの仕事を抱えています。病院と違うのは日常生活上の援助の占める割合が多いことです。それは医療現場というより家庭生活の場という感じを受けました。出産は和室の分娩室で行って

います。クッションや椅子産み綱などを使いフリースタイル、アクティブバースと出産時の姿勢は産婦さんの希望のお任せしています。出産時の家族参加、子連れ入院、家族宿泊等も自由でありもちろん24時間母児同室です。産後のケアは母乳育児への支援で母乳成功率は9割です。第1回の乳首への吸てつから始まり最初の2、3日が勝負どころです。スタートが大事であり赤ちゃんの満足度を見ながらスタッフで相談しながら、問題は皆で共有し、寄り添っています。「母乳成功の秘訣は母親を信用すること、母乳が出る力、赤ちゃんの飲む力を信用すること」というお言葉を頂戴しました。信用とは・・・辛抱すること・・・辛抱の足りない生活をしている私には耳の痛い心にしみるお話でした。お産の時に気を付けていることは「あんまりいじらないこと。手だししないほうがうまくいく、側で見守ること大事、介助するものは指図しない。うちのお産は静かなお産ですよ」

○●○●○●○ まつやま助産院の概要 ○●○●○●○

*施設の理念

生む人が希望するバースプランにあわせ、母子の安全を最優先にしながら「産む力」「生まれてくる力」を大切に自然なお産達成を支援する

*スタッフ 助産師5名

調理師6月から入職予定

*嘱託医療機関 松山赤十字病院

*診察時間 日曜祭日以外オープン

9:00～17:00

*ベット数 3床

*年間分娩件数 約50件



●お産室「宙」の様子です。天井から産み綱が下がっています。

●リラックスできるグッズもそろっています。満足出来るお産をされたお母さん方が様子が目に浮かんできます。



また、他の産院で出産する人にも施設を開放しており、お産のお話会、母乳のお話会、安産ウォーキング、マタニティ・ヨガ、マタニティ・フラ、赤ちゃんマッサージとたくさんの行事が催されています。

●母子を支える助産師の思い

松山助産院のスタッフとなり10年目を迎えた武智院長の思いを伺うことができました。

Q：なぜ助産院を受け継ごうと思ったのですか？

A：病院で働いていた時は組織の中の1コマであり、スタッフと上司の為に働いていたように思います。自分自身が人・物・お金・組織の為に働いていた。そんな時に地域で生き生きと働いている助産院の助産師と出会い、触発されました。今まで組織の為に働いてきたので、あと10年は地域の為に、母子の為に、自分の思いを遂げたいと思ったのです。それには、自分のやりたい仕事をするなら助産所しかないと思ったのです。

Q：スタッフとして良かったことは？
A：こんなお産がしたいとお母さんの希望にたいして一番いい環境を提供できるお産が出来た、産んで良かったといわれたときです。命の重みに感動します。お産は産む人の体が産むのかなあ～

Q：反対にとまどったことは？

A：自分の判断の全てが1つ1つに責任を感じ、搬送の時期を判断する難しさがあります。最近特に気を付けていることは安全ですね。2人の命は重いです。自信はついていかないですね。

現在たくさんの助産師、看護師の実習生を受け入れ、教育の場としても力をいれておられます。ここから未来の助産師がたくさん育ってほしいと思います。

お忙しい中、インタビューさせていただきました武智院長ありがとうございました。

(ひめつう編集委員：原田恵美)



★診察室(月)の様子



★入院室の様子
暖かい空気を感じます。

ひめじょうしん No.17 (2022.7)

みんなの
まつじょ

まつやま助産院を産後ケア実習や
会員の皆さんの助産師活動の場として活用できます！



全国でも数少ない、助産師会が設置主体の「まつやま助産院」は、私たちひめじょ会員の拠点ともいえる場所です。愛媛助産師会の理事会やオンライン研修の運営もまつじょのお部屋を借りて開催しています。今回は、助産師会立の助産院として会員の皆様や地域の母子の方々に、さらに身近な拠点として気軽に利用していただける耳寄りなお知らせです！(今村)

❦ 研修：産後ケア実務助産師の実習をまつじょで！

日本助産師会により認証される「産後ケア実務助産師研修修了者」の制度では、研修の受講だけでなく、産後ケア実務もしくは2日間の実習をおこない、修了承認書を記載してもらう必要があります。まつやま助産院では、ショート、デイ、アウトリーチの産後ケアを行っていますので、実習受け入れが可能です。また、産後ケア以外にも、妊婦健診を学びたい、助産院業務を学びたい助産師の方など、まつじょの研修制度を利用できます。実際に研修

されている方々を見てみると、助産師同士楽しくおしゃべりしながら業務をともし、自然に助産院に溶け込んでいる感じでした。

❦ 集まる：学習会などの部屋利用をまつじょで！

助産院の「太陽の間」を、愛媛助産師会の会員を中心とした勉強会や女性や子供を対象とした活動の場として有効利用できます。ぜひお気軽にご活用ください！

ひめじょうしん No.17 (2022.7)

まつじょ
X助学

助産学生による**助産管理の開業計画発表**の取り組みが学会で表彰されました！

医療技術大学で助産を学んだ皆様はご存じと思いますが、「助産管理」の科目では、まつやま助産院の武智院長の講義があり、最終課題として助産所開業計画の発表を行っています。コロナ禍においてもその学びは止めず、助産院スタッフの皆さんに勢ぞろいしていただき、オンラインで学生とつないで“熱い”ディスカッションを繰り広げました！

助産院の理念からはじまり、立地条件や嘱託医、施設設備や業務形態、資金繰りまで…様々な管理の視点を考えながら自分たちの「理想」を「形」にする作業は大変ですが、とても楽しく深い学びがあります。また、助産院の皆さんにとっては、学生のアイディアに新たな刺激をうける機会にもなるようで、年代を超えて助産師としてお互いに夢を語り合えることが、いかに楽しいことかを実感しています。学生たちのこの経験が将来、母子を中心としたケアを作り出す力になることを願っています！

その後、その成果を3月の助産学会の「助産師学生ポスター発表(全国助産師教育協議会主催)」で代表学生が発表し、なんと！優秀な2校に選ばれ表彰されるという快挙につながりました。



❦愛媛助産師会立の
助産院が登場！
「愛媛助産師会立の助産院として誇りをもって愛媛の助産活動に努めます」の理念に感動でした。



❦間取り図の
精密さは年々
グレートアップ
しています！



【シンポジウム】 これからの産後ケア 守りぬくもの × 変えてゆくもの

今回、シンポジストとして登場いただく4名の講師は、皆さんこれまで、ひめじょ通信で取材させていただいた方ばかりです。その取材記事をまとめて掲載しました。まずは、それぞれの施設が、愛媛県内のどこにあるのか、この地図でイメージなさってください。

中予：松山市

● まつやま助産院

特別講演に登場のまつやま助産院も、産後ケアを実施しています！

南予：八幡浜市

● はらだ助産院



東予：四国中央市・新居浜市

● 四国中央病院

● ゆりかごファミリークリニック

● 産前産後ケアハウスFUWARI

ひめじょつうしん No.18 (2023.5)

産後ケア
特集
Part 1

混合病棟の中で取り組む産後ケアの実践 四国中央病院 産前産後ケアセンター

四国中央病院 助産師 愛媛助産師会理事・広報委員 中尾慶子



【当院の概要】

当院は、産婦人科病床18床、一般病床21床の地域包括ケア病棟です。2015年に助産師外来を開設し、加えて病院内に子ども虐待対応組織（以下、CPT：Child Protection Team）を設置し、社会的ハイリスク妊婦への対応も担っています。医療機関と行政が連携強化するために、院内での対応方針の統一、役割分担の明確化、スタッフのスキルの向上に向けて、定期的な会を開催しています。

【産前産後ケアセンターについて】

2017年から保健センターと協議を行い、同年7月から産後ケアが開始となりました。対象者は①住民票が四国中央市にある、②育児不安がある、③育児支援者が居ないの3点です。しかし現在は、育児支援者が居ても、協力が得られない方もおり、本人が希望するケースは、全例産後ケア申請の対象となっています。

当院では、助産師外来で育児支援状況を把握し、産後入院中に、保健師に繋ぎ、申請を行うことで、早期に産後ケアを利用出来るように工夫を行っています。

【産後ケアのサービス紹介】

デイサービス利用の方は、10時に来院し、本人とベビーの様子を聞かせてもらい、沐浴の希望があれば、スタッフが行います。授乳が不安なお母さんには、授乳に合わせてケアを行います。不眠のため休息を希望される方には、リラックス効果を高められるように、バスオイルを使った足浴をしたり、アロマトリートメントを行っています。昼食をとり、15時にはおやつを出しています。ショートステイ利用の方は、夜間授乳以外にベビーの預かりを希望する方が多いので、他の新生児との接触を避けるために、新生児室の感染症室に預かります。当院では、産婦人科領域をユニット化しており、産後ケア利用者は、ユニット内の和室を使用し、他科の患者との接触がないように工夫しています。



● アロマ＆母乳外来室



● ユニット化の和室

【産後ケアの利用について】

コロナ禍になり、より一層産後ケア利用をする方が増えています。特に第5波の時には、退院後そのまま利用をする方、里帰りが出来ない方などを中心に、毎日予約が埋まっている時期がありました。

専従のスタッフが置けない為、予約が入ると、日勤1名、準夜勤1名、深夜勤1名で担当を決めて対応をしています。日勤では、分娩担当や、ベビー担当が中心となり担当しています。

産後ケア利用理由
延べ人数(重複あり)
N=36



……産後ケアの利用状況……

- ・デイ：18件、ショート：27件
- ・利用者の平均年齢：32.8歳
- ・初産婦21人、経産婦15人
(2018年7月～2022年5月)
- ・産後ケア利用開始時期
平均45日目(当院出産の方)
平均52日目(他施設出産の方)
- ・利用回数：平均2.6回

●ブレンドオイル
にて足浴中



【産後ケア利用者のアンケート結果から】

産後ケア利用して良かったこととして『助産師とのコミュニケーション』が最も多く回答していました。また、産後ケア利用中に、体調がすぐれず、産婦人科受診をしたケ方や、ベビーの皮膚トラブルで、小児科医師の診察を依頼出来ることも、当院で産後ケアを利用するメリットだと思います。

【産後ケアの質の向上につなげていくこと】

全国的に産婦人科単独病棟は減っており、混合病棟が増えています。このような背景から、母子へのケア不足、安全管理、感染対策が課題となっています。国の産後ケア事業推進は進んでいますが、受け皿としての施設不足や、助産師不足は解消されずにいます。また、月齢が進んだベビーの対応は、新生児とは違い、助産師の対応力やスキルが必要となります。当院は、学生実習の受け入れ施設でもあり、学生が産後ケアの実際を見る機会を持つことも、貴重な経験につながると思い、共に学びを深めています。6年目を迎える産後ケアでは、第1子から第2子も同様に利用するなど、継続的にケアをすることもあり、助産師としてのやりがいを感じています。

産後ケアの事前申請をする上で、妊娠期から注意していることは、DVスクリーニング2点以上、心療内科受診歴、妊娠期



他施設で出産した方は、産後ケア申請をする時期が遅れ、利用開始時期も、当院出産の方よりも申請・利用開始時期が遅くなっていることがわかりました。利用回数は、平均2.6回と、7日間全て利用される方が少なく、期間内に利用出来ない方が多くいました。

現在、隣接する三好市(徳島県)の産後ケア事業の委託を受けており、利用料金が、ショート：4000円、デイ：1000円(自己負担額)に設定されており、妊娠期から申請し、利用されています。

【産後ケア利用者と助産師との信頼関係の構築】

産後ケアを利用する褥婦のパーソナリティや両親との関係、夫との関係などが把握できるケースは、妊娠期から助産師外来で私達と信頼関係を構築している方です。産後ケアの利用目的も『知っているスタッフが居るから。』『お産の経過や、母乳育児のことなど相談しやすい。』という意見をいただき、利用期間内の退院後早期に利用しています。しかし、『もっと早くに知っていたら良かった。』といった意見もあり、産後ケア利用者は、退院後早期に利用したいケースが多いことがわかりました。経産婦では、利用したくても、上の子の行事などと重なり、期間内に1回しか利用出来ないこともあります。そのような方には、利用期間を延長し、産後5ヵ月まで、利用延長の申請も可能になりました。また、産後ケアだけでなく、母乳外来でも継続的に支援を続けています。

EPDS高値、育児支援者が不足しているなどです。これ以外にも、産後に育児不安がある方、要支援妊婦、特定妊婦にも事前申請をすすめています。

2022年10月から、行政の補助券を利用し、2週間健診を受ける方が増えました。私達も産後ケア、2週間健診、1ヵ月助産師外来で、メンタルヘルスについてアセスメントする機会も増えました。様々な育児困難事例、ボンディング障害事例もありました。産婦人科のチームや、CPTの会でも情報共有し、対応するスタッフを皆で支えられるよう、普段から話し合える関係を大切にしています。このような支援を継続していくことは、施設内で産後ケアを行う上で、とても重要なことだと感じています。

施設内では、コロナ禍で面会制限、立ち合い分娩中止が続く、閉鎖的で、母親以外の情報が得られにくい環境にあります(2023年4月5日から分娩立ち合い再開)。だからこそ、SDGsの理念でもある『誰一人取り残さない』世界。『3. すべての人に健康と福祉を』の達成に向けて、どのような状況においても、助産師のケアを継続的に受けられる仕組み作りを考え、妊娠、出産、産後を伴奏していきたいと考えています。愛媛助産師会の研修参加や、助産師会メンバーとの交流の中で、さらに視野を広げていきたいと思っています。



F U W A R I 特別取材

密着！開業までの道のり

産後ケアの法制化などが追い風となり、現在、全国的に開業助産師の数が急速に増加しています。

愛媛でも、10年前には6ヶ所だった助産所が、令和6年4月現在、約20ヶ所に（愛媛助産師会会員の開業に限る）。しかし、助産所ができるまでにどのようなステップを経ているのか…ご存知ない方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、伊藤美香さん全面協力のもと、助産所開業の構想から実現までを、余す所なくお見せします！

（広報委員：瀧本千紗）

愛媛助産師会員の開業形態
（令和6年4月現在、全20助産所）



新しくなった助産所マップはPage 6へ





2023年11月1日

産前産後ケアハウス
FUWARI
オープン、内覧会



2023年11月6・7日

見学会開催

2023年11月15日

第1号利用者さん
お迎え



「産前産後ケアってどんなもの?ちょっと気になる…」
「産後ケアが必要!利用したい!」
妊娠中～産後1年未満の女性を対象です!

11/1 wed
Grand open!



FUWARI代表
助産師 伊藤美香

産前からのケアを取り入れるFUWARIのこだわり

「産後がこんなに大変だなんて聞いてない!」そんなお母さんを多く見てきました。
産後のお母さんは、「可愛い我が子を守らない!」と、自分のことは後回しにして毎日一生懸命です。
妊娠中から地域の助産師と関わり出産に向けて準備することで、産後困ったときに頼れる存在を
作っておき対処できるようになってほしい。そして、母としてしなやかに強くなってほしい。
FUWARIでは妊娠期から子育て期の切れ目ない支援とお母さんの自分らしさをサポートします。

FUWARIの良さ

出産と産後に向けて今
できる準備をし不安のない
マタニティライフを



家族みんなでママと
赤ちゃんのサポート
産後すぐに相談できる
助産師がいる安心感



外出することで
心と体をリフレッシュ
プチお出かけ気分



古民家を改築し、白を基調
とした落ち着いた空間
自分のための時間



2023年11月末

税務署に開業届と
青色申告承認申請書
提出

開業から
1か月以内

開業から
2か月以内

第1・3水曜日
14-16時

2024年1月

妊婦さん交流会
スタート

2024年4月

LINE公式
アカウント
開設



2024年3月

宿泊なし
の場合
5年に1回

保健所監査

今後のビジョン
については
次のページへ



FUWARI

Access: 〒792-0050
愛媛県新居浜市荻生 300-2
Mail: fuwari.niihama@gmail.com

お問い合わせはHPから
お願いします!



Home page Instagram
Tel: 080-4990-6700



産前産後ケアハウスFUWARI 院長 伊藤美香さん に特別インタビュー



●伊藤美香さんご紹介

県内の産科医療施設で助産師として約20年、専門学校や大学で教員として約11年勤務。臨床現場や教育現場での経験を活かして、2023年11月、自身が生まれ育った新居浜市で「産前産後ケアハウスFUWARI」を開業。

プライベートでは1男1女の母。

なぜ開業しようと思ったのでしょうか？

臨床で働く助産師と産後の母子との関わりは、通常産後1ヶ月健診が最終で、それ以降の関わりはほとんどありません。臨床で働いている時から、出産して退院した母子がその後どのように過ごしているのか気になっており、いつか地域で助産師として活動したいと思っていました。

そのような中、開業への思いを後押しする出来事がありました。まず、令和元年に産後ケア事業に関する母子保健法の改正があり、令和6年度末までに産後ケア事業の全国展開が決定されたこと、もう一つは、大学教員時代に、助産学生の実習をサポートする中で、臨床勤務時代に思っていた退院後の母子との継続的な関わり大切さを再認識したことから、地域での助産師活動に対する思いが強くなりました。そして、自身の子もたちが社会人として自立することをきっかけに開業という新たな一歩を踏み出すことを決意しました。

屋号やロゴにはどんな思いが込められていますか？

屋号は、やわらかいイメージにしたいという思いから「FUWARI」にしました。「助産所」や「助産院」ではなく「産前産後ケアハウス」とつけた理由は、産前産後のケアをイメージしてもらうためです。ですが、助産所の名称にしているのか不安だったため保健所に確認したところ、「『センター』とつけなければ大丈夫」とのお返事をいただき、「産前産後ケアハウス FUWARI」となりました。

ロゴは、「まるっとデザイン」のまるさんに、私の思いを伝えてデザインしていただきました。このロゴには2つの手があり、一つは赤ちゃんを抱くお母さんの手、もう一つは母子二人を抱く手です。母子を抱く手は助産師の手であり、家族の手であり、周囲の様々な人 みんなで赤ちゃんとお母さんを支えていこうという意味が込められています。周りの丸みは、お母さんたちへ「完璧でなくていい」、「ありのままでもいい」というメッセージを込めて、あえて不定形になっています。



ここだけの話、お金のこと教えてください！

計画当初は手持ちのお金で足りると思っていたのですが、リフォームや施設内の備品などを準備していくと、思ったよりも資金が必要でした。古民家や空き家の利用は、古ければ古いほど設備の修繕にお金がかかります。消費税も大きいです。このあたりの読みが甘かったです。

また、助成金や補助金を利用する場合は、受理されるまで工事が始められないので、期間に余裕をもって計画的に利用されたほうがいいです。

現在、助産師1名（自分）で1日1組の産後ケアの受け入れを行っています。新居浜市、西条市の産後ケア日帰り型A（10時間利用）1件当たりの収入は20,000円です。経費を無視してすべてを人件費として計算すると助産師の時給は2,000円になりますが、実際は経費もありこのような単純計算にはなりません。ケア利用前後の準備や片付け、掃除、洗濯などの時間を加算すると実際の労働時間としては10時間以上になります。産後ケアは、行政の補助を受けて利用される方がほとんどなので、収益は行政からの予約があって得られます。

当初は、宿泊型の産後ケアもやっていたと意気込み、リフォーム時に部屋の面積が基準を満たすように注意し、宿泊施設として必要な消防設備も設置しました。しかし、宿泊型の産後ケアの収入はというと、24時間で新居浜市30,000円、西条市27,000円です。（ちなみに…松山市40,000円、高松市50,000円）これらの収入を時給換算するとなかなか厳しい金額になります。また、助産師1名で24時間勤務を行うことは安全面からも非現実的ですので、宿泊型は人を雇わないとやっていけません。ただ、現状では夜間手当の支払いは元より、人を雇うのも難しく、今は宿泊型を断念せざるを得ない状況です。

TOPICS

助産師の時給1,500円だとすると...

日帰りA（10時間、20,000円）の内訳例



この部分が借入金の返済。つまり…これではスタッフは雇えない！

最後に、FUWARIのこれからのビジョンを

お聞かせください！

まずは、産後ケアの認知度をアップさせることが重要だと思っています。SNSなどを積極的に活用してPRしていきたいです。また、屋号にも通じるところになりますが、妊娠から出産、産後を通して、母子のかかりつけ助産師になることを目指します。さらに、周産期だけでなく、地域において女性の一生をサポートするプレコンセプションケアを行っていきたいと考えています。

【取材を終えて…】伊藤さん、密着取材にご協力いただき、本当にありがとうございました。これからも、伊藤さんのご活躍から目が離せません♡

新しくなった助産所マップは、こちらからご覧いただけます。印刷物をご入用の方は、事務局までお問い合わせください。随時更新予定のWeb版も、ぜひご活用ください。



新会長
誕生

愛媛助産師会 新旧会長 インタビュー！

原田恵美 新会長

井伊貴子 前会長



原田恵美 新会長ご挨拶



今年度会長に任命されました原田です。

私自身も八幡浜市で出張専門の開業助産師として仕事をしている立場ですので、地域で助産師が活動できる場所を今後もっと増やしていきたいと考えています。

研修会や部会集会を通して、会員同士の顔が見える関係づくりを今後もっと増やしていけたらと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

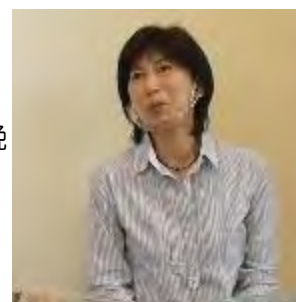


ご挨拶動画
はこちら

原田恵美 新会長のご紹介

●**助産師活動** 八幡浜市民病院・市立宇和島病院で助産師・看護師として勤務
2018年7月、はらだ助産院（出張専門）を開業。山内産婦人科での産直で分娩
介助にも携わっている。南予地区を中心に行政と連携しながら性教育、アウト
リーチでの産後ケアで活動している。

●**ひめじょの活動** H21年～28年 ひめじょ広報委員として活動
H27年～31年 愛媛助産師会理事 保健指導部会長、子育て女性の健康支援
センター長、リプロヘルス学習グループリーダーなどを歴任



***原田さんの現在のお仕事について教えてください。
もともと開業志望だったのでしょうか？**

八幡浜で産科がなくなり、やっぱり助産師の仕事がしたいと思い、宇和島に通いましたが、最終的に地元に貢献することができれば…と思っていました。八幡浜のお母さん方から「八幡浜でお産できる場所があったら」という声があり、産後のケアだけでも私ができたらなあ…という気持ちがあったので、開業しようかなという気持ちに至りました。

***会長就任の打診があった時、どう思われたましたか？**

井伊会長は原田さんを狙っておられたようですね。

私ですか？と思いました。井伊さんから1時間くらい電話で説得されて、考えてもどうしようもないので、できる限りやろうかなと思いました。私が開業した頃は、保健指導部会の会員が数名でしたが、愛媛県でもやっと増えてきたので、保健指導部会の繋がりや活躍できる場所を広げていけたらという思いがあります。

***南予からの会長就任は初めてですね**

会議等へ参加もしやすいため、今までほとんど会長は中予の方でしたが、今回、私が南予からということで、その点は皆さんに助けていただきながら、地域の強みを活かしながら、いままで目に見えなかったところも出てくるかなと思っています。南予は非常に団結力があるので、県の活動でも活かしていきたいです。

原田 新会長



井伊 前会長

お二人にお聞きしました！

***ひめじょ・愛媛の助産師のいいところ、もっとこうなるといいなと思うところはありますか？**

原田新会長 全国の部会に出ていて、こんなにも会員率が高い県は他にないですね！たくさんの助産師が入っている愛媛助産師会の裾野をもっともっと広げていきたいです。

井伊前会長 助産師会自体は開業助産師の会として始まったものではありませんが、もっと勤務助産師部会が盛り上がりしてほしいと思います。コロナ禍で部会集会が開催できていませんが、今年度はオンラインで開催ができれば、施設同士の繋がりを持てる機会になると思います。

原田新会長 まずは部会内での交流の場を設け、その後部会同士の交流にも発展させていきたいですね。

産後ケア
特集
Part 2地域の小児科で取り組む産後ケア
ゆりかごファミリークリニック (新居浜市)

●鈴木 さゆり 助産師

- ・ゆりかごファミリークリニック
- 産後ケア・訪問担当助産師
- ・出張訪問助産師すずき

西条中央病院で助産師として長年勤務された鈴木さん。退職後は、西条市で出張訪問助産師を開業し、活動を行いながら、ゆりかごの産後ケアや訪問に携わる。

大藤先生とは西条中央病院の小児科病棟勤務時代に出会い、今に至る。



訪問助産師ロゴ

助産師 × 小児科医師
最強タッグのお二人！

●大藤 佳子 医師

- ゆりかごファミリークリニック院長
- ・日本小児科学会専門医
- ・愛媛県医師会理事
- ・認定NPO法人ラ・ファミリエ理事

愛媛県内各地の総合病院や子ども療育センターで小児医療に携わってこられた大藤先生。子どもと家族の生活を地域で支えるために在宅医療を学び、2022年にゆりかごファミリークリニックの開業に至った。



- 1階が小児科外来とリハビリ室、2階が産後ケアや短期入所の病棟です。

ゆりかご
HP

◆ゆりかごファミリークリニックについて

- 2022年4月：仮の診療所で開業し、訪問診療と小児科外来、訪問型の産後ケアを開始
- 2023年1月：医療型短期入所や小児リハビリの機能を備えた新しい施設に移転オープン。2部屋の産後ケアの病室も整備され、宿泊型も可能となった。

*ゆりかごの名前に込めた思い ～HPより～

～そこに暮らす人が1つの大きな「ゆりかご」に乗っているかのようにどんな時でも安心して過ごせ、心身のことで心配なことがあればいつでも頼ってもらえるようなクリニックを目指したいと思い名付けました。そして、たとえ病気や障がいがあっても、子どもから大人まで住み慣れた地域ですっと生活していけるように地域をまるごとみることを目標です。～



- 2階の病棟フロアの真ん中にある「ゆりかご」のような大きなブランコ!?
- 天井のライトは、黄色い線で結ばれた星座ごとに点灯！子どもが喜び工夫満載です。

◆ゆりかごで目指す、様々な垣根を越えた切れ目のない医療

大藤先生は、もともと小児がんの子どもの在宅看取りや重症心身障がい児が家で過ごすために、在宅医療に取り組み始めたことから、活動の場が施設から家へと広がっていったそうです。さらに重症心身障がい児の方が、子どもから大人になっても診られるようにと考えていると、場所・年齢・障がいの垣根もなく「どんな子どもも大人もずっと地域で暮らしていけるように」という理念のもと「ゆりかごファミリークリニック」の開業に至りました。

今回、新しい施設のオープンにあたって、「いつも訪

問診療をしている重症心身障がいの方の家族がレスパイトできるためには短期入所施設もいるし…、子育て支援のためには、宿泊型の産後ケアも必要だし…、と考えていくうちに、この地域にはないものをくっつけていったら、今のよう施設の形になりました。」と、様々な機能を兼ね備えたクリニックにした理由を教えてくださいました。そして、「この施設で、産後ケアで来る赤ちゃんから障害がある子まで、いろんな子が、遊んだり学んだりしながら病棟で楽しく過ごせるようにしていきたい。」と、思いを語っていただきました。

*小児科医として必要性を感じた「産後ケア」

大藤医師：小児科医としては珍しいかもしれないけど、産後ケアは、西条中央病院にいる頃から知っていました。普段の小児科の診療の中で、家族のフォローだけでは難しく、産後ケアで専門的なフォローが必要な母子がたくさんいるな…と感じていました。例えば、小児科で子どもの発達障害を長く診ていると、その子たちが母親になる年代になってきて、丁寧に育児支援しないと赤ちゃんが普通に育

たないケースが増えていて、産後ケアのニーズがあることを実感しています。

子どもにとっては、親も「環境」だと思っているので、両親が楽しく子育てすることが、子どもにとっていい環境になるので、病気や障害があろうが、なかろうが、「子育て支援」としてフォローができる体制があったらいいな…と、いつも思っています。

◆ゆりかごファミリークリニックでの産後ケアの実際

*宿泊型で「夜」を含めて支援する大切さ

大藤医師:総合病院にいた時は、母親の子育ての困りごとが原因で、子どもに影響があるケースは、「小児科入院」という形で母子が一緒に入院できるようにしていました。やっぱり、手厚い育児支援が必要な場合は、宿泊して、夜の授乳や赤ちゃんのあやし方など、「夜」の育児支援ができるようにすることが、効果があると感じていたので、クリニックで宿泊型の産後ケアに取り組んでいきたいと思いました。

鈴木助産師:現在は、私が主に日帰りや宿泊型の産後ケアを担当していますが、一人ではできないので、他に契約している助産師さんや、ゆりかごの看護師さんにも一緒に手伝ってもらって、ケアを行っています。1月に施設をオープンして約1か月で、早速3件の宿泊型産後ケアがありました(2月末に取材)。お母さんをしっかりと癒して、笑顔になって帰ってもらえるように丁寧にケアしたいと思っています。



● ゆっくりくつろげる産後ケアの個室。お部屋を出ると左ページ写真の広い病棟フロアなので、1歳近い子どもがはい回っても大丈夫なスペースがあります。

*訪問型のケアで、家での具体的な困りごとを解決する支援の大切さ

大藤医師:訪問は特別な子だけに行くと思われがちですが、「子育て支援」として「家に行く必要がある」と思うんですよ。新居浜市からゆりかごに委託される訪問型の産後ケアは、仮設クリニックの時から全て助産師の鈴木さんをお願いしています。助産師が訪問に行くからこそ、その家に合った育児の指導ができるし、お母さんが本当に聞きたい生活の中での困りごとが、具体的に解決できると思うんです。

また、クリニックとしては、訪問は「産後ケア(収入に応じた自己負担あり)」の制度だけでなく、「訪問看護(新居浜市は子ども医療費助成で18歳まで無料)」も使えます。特別にフォローが必要な診断名がつくようなケースでは、医療保険を利用した訪問看護の方で支援することもできるので、そうすると利用者の費用負担もなく、必要なケースのフォローが確実にできます。



● 赤ちゃん用のベッドは、24か月まで使える海外製品。横の柵を倒して添い寝ができるようになっていたり、寝ている赤ちゃんを保護できる蚊帳がとても可愛い！(上の写真が蚊帳を閉じたところ)

◆地域の子育てを支える、助産師×小児科医の最強タッグ

*それぞれの専門性を生かして、子育てを支える

大藤医師:健診やワクチンで来た子を、どうフォローしようかと思う時、私はよく鈴木さんを呼びんです。小児科医だけで、助産師がいないところでの育児指導は難しいので、頼りにしています。今後、お産は減るかもしれないけど、濃厚に関わってもらいたい子は増えると思うので、妊娠期から1歳頃までのお母さんと赤ちゃんの両方に関わって、生活の中で育児支援ができる助産師さんの専門性を発揮してほしいと思います。

鈴木助産師:産科は生後1か月までの関わりが主だけど、実際はそれより後の育児の方が長いし、赤ちゃんのことで相談したいのは、やっぱり小児科の先生だと思うんです。ゆりかごでは、ちょっとしたことも大藤先生に相談できるのが強みです。今はまだ、大きな子の産後ケアの依頼はないですが、産後ケアが1歳まで延長されたこともあって、月齢のすすんだ子どもをみることもできるのも小児科ならできそう…と思います。

*出張訪問助産師としてもゆりかごと連携

鈴木助産師:新居浜市の産後ケアは宿泊型も訪問型も、ゆりかごのスタッフとして行っていますが、西条市の訪問型の産後ケアは、「出張訪問助産師すずき」として独自で行くようにして、地域で活動を分けています。

それ以外では、ゆりかごの小児科外来にきた方でも、ちょっとだけフォローが必要な人などは、先生とも相談して、助産院の「LINE相談」で気軽につながれるように支援することもあります。最近は、ゆりかごの施設が新しくなって忙しいけど、助産院の活動として、いろいろ

やっていきたいこともあります。赤ちゃんを抱いて踊る、産後ダンスもやってるんですよ。

〔◎パワフルですね…(°▽°)!!〕

自分自身、これまで病院の小児科で少し働いたり、子育て・孫育てもさせてもらって、子どもが育つ様子やイマドキの育児も知っていることが、今の実践にとっても役に立っています。今、ゆりかごと助産院の両方で、お母さんと赤ちゃんに関われることが、とても楽しいです。

◆地域をつくる！愛媛全体の子育て支援を変えていく！ゆりかごのこれから……………

「ここにいろんな人が集まって、連携しやすい拠点になればいいかな…」と話される大藤先生。取材で印象的だったのは、「地域をつくる」という言葉でした。地域全体のニーズを読み取り、そこで必要とされる施設を開設し、そこに多職種の人が集まることで、1つのクリニックの存在が地域の暮らしやすさを大きく変えていく！とい

うことを実感しました。また、医師会やNPO法人の理事をされている大藤先生は、東予地域だけでなく愛媛県全体の子育て支援の施設の充実に向けて、さらなる展開を考えておられるとのことでした。愛媛助産師会としても連携し、実現したら、ぜひ取材に伺いたいと思います。

(広報委員:今村朋子)

R4
春季研修乳腺炎と乳房ケア 2022.5.22 鈴木佳奈子先生
(助産院ゆるり院長 国際認定ラクテーションコンサルタント)

愛媛助産師会春季研修会を終えて

愛媛助産師会母乳学習グループリーダー
県立今治病院 福増 理栄子

みなさんは鈴木佳奈子さんをご存じですか。もう何年も前のことになりますが、鈴木さんは、愛媛県武道館で開催された戸田先生の研修に香川から参加されていました。今の活躍ぶりをみてもわかりますが、とってもグローバルでアクティブな助産師です。

ひさしぶりの母乳育児支援の研修は、みなさんが日々悩む「乳腺炎」をテーマに助産師である鈴木さんに講演をしていただきました。鈴木さんから、エビデンスに基づいた知識、技術、母親が意思決定できるようなコミュニケーションを教えてくださいました。

助産師だからできる乳房ケアもあり、助産師の関心の高い内容でした。また、「母子の自律を支える」「点ではなく線で…乳房だけを見るのではない」「線から面で支える～自分は母子にとってリソース一つであるという

認識と、地域にある資源の把握・共有」が地域で母子を支援する鈴木さんからのメッセージだと受け取りました。鈴木さんからは、「愛媛では日頃から乳腺炎や乳房ケアについて、愛媛のみんなで事例検討や情報交換できているのか。」「身近な地域で乳腺炎のお母さんをどのような連携で支援しているのか、というあたりが県内の地域ごとに共通認識をもてていたらいいな」というアドバイスを頂きました。



●ゆるりHPより

コロナ禍でみんなストレスがたまっているからなのか、乳腺炎のお母さんが増えていると思いませんか？

乳腺炎を主訴で来たのに、「おしゃべりできて楽しかった。」「大好きなケーキを食べてい

って言われてうれしい。今日来てよかった。」なんて言われて思い出したことがあります。惟任さんが「おっぱいが楽になってるんるんって気持ちになってほしい」という思いでおっぱい相談室るんるとつけたことを。

私も鈴木さんや惟任さんみたいになって、お母さんや赤ちゃんが、るんるんな気持ちになれる母乳育児支援をしたいです。

運営担当より：今回は、ネット回線ダウンにより、開始直後からしばらく研修がストップするという、まさかの事件が発生！運営本部のまつじょは大慌てでしたが、その時間の中で、

日頃の母乳育児支援の疑問について質問したり、それについて答えたりして、時間をつないでくださった参加者の皆様！本当に助けていただいて、ありがとうございました。

ZOOM研修の難しさを実感いたしました。一番驚かれたのは、講師の鈴木先生だったと思います。大変な中、立派に講演を続けていただきありがとうございました。本当に素晴らしい研修でした。



●助産院ゆるりHP
<https://www.yururi-mw.net/>

子育ては、ゆるく、
楽しく、頑張りすぎず。
香川県丸亀市にある助産院です。



ひめじょ
Instagram 開始！
フォローお願いします



EHIMEJYOSANSHI

●愛媛助産師会の情報を写真でお届けするためにひめじょInstagramを開始しました。皆様ぜひフォローをお願いします！イベントや研修の様子をタイムリーにお知らせしたいと思いますので、たくさんの「♡いいね」がいただけると嬉しいです。(☆_ _)

ひめじょ
LINE公式アカウント
友だち登録をお願いします



●愛媛助産師会の情報を便利に届ける、LINE公式アカウント！研修やイベント情報を発信中です。LINEユーザーの方は、ぜひ「お友だち追加」をお願いします。会員・非会員を問わずどなたでも登録可能です。



日本助産師会
会員マイページ
に必ずご登録を！



●皆さん会員マイページの登録はお済みですか？研修申込も修了証発行もこちらからになります。ここに登録したメールにひめじょ事務局からの連絡をお送りしますので、必ずいつも使用しているメールアドレスの登録をお願いします。なおマイページは、パソコン・スマホどこからでもアクセスできますので、うまく活用してください！